

薬剤部の紹介

患者様に適切で安全な薬物治療を受けて頂くことを目標として日々活動しています。神経内科疾患の積極的な薬物治療や様々な疾患の急性期治療後の長期的な薬物治療を支えています。

スタッフ 薬剤師 18名 薬剤助手 9名（2022年4月現在）

薬剤部の業務

- 調剤業務
- 注射薬調剤業務
- 医薬品管理業務
- 病棟薬剤師業務
- 医薬品情報管理業務
- 院内特殊製剤業務

薬剤部の紹介

その他、積極的に取り組んでいる業務

- フィジカルアセスメント
- TDM業務
- 褥瘡対策チーム
- 薬剤部内勉強会
- 感染制御チーム（ICT）
- 薬学生の実習受け入れ
- 栄養サポートチーム（NST）
- プレアボイド報告
- 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
- 全国関連学会への発表

次のページから具体的に紹介していきます！！

調剤業務

入院・外来患者様の内服薬と外用薬の調剤を行っております。
オーダリングシステムによる処方箋の受付、処方監査（用法・
用量・相互作用などのチェック）、医師への疑義照会を行って
います。

より正確で安全な調剤を行うために、(株)トーショーの調剤
支援システムを導入しています。



全自動錠剤分包機



散剤調剤

調剤業務

全自動一包化調剤画像監査システムを導入して、安全・確実な調剤の実施と監査者の負担軽減・業務の効率化を図っています。

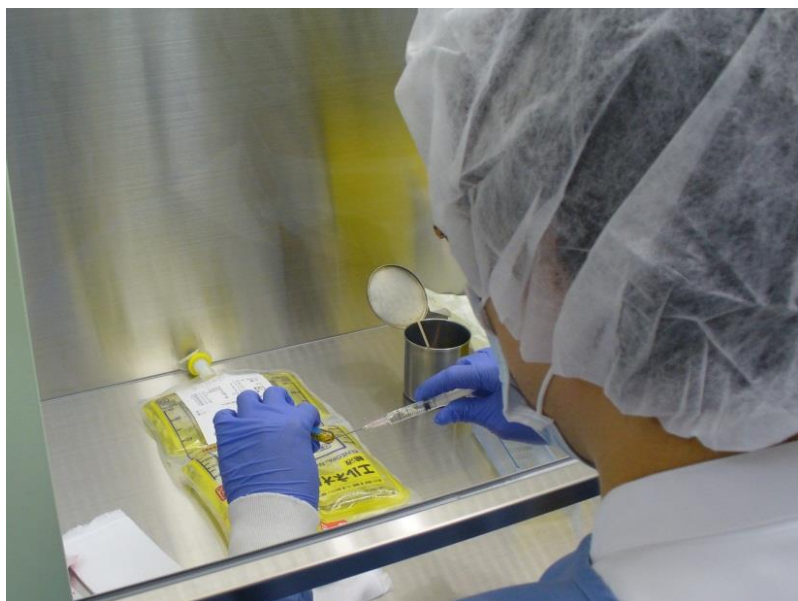


監査画面

注射薬調剤業務

入院患者様の注射薬について、オーダリングシステムによる処方箋の受付、処方監査（用法・用量・相互作用などのチェック）、医師への疑義照会を行っています。

処方監査後に注射薬の個人セット、輸液への注射薬の混注を無菌的にクリーンベンチ内で毎日実施しています。



輸液調製



注射セット・最終監査

医薬品管理業務

院内において、医薬品が適正に使用されるために購入管理、在庫管理、院内各部署への払い出しなどを行っています。

医薬品の購入はオンライン発注システムにより効率よく行われています。在庫管理は、薬剤部と病棟に保管されている医薬品の数量、保管状況、使用期限などを定期的に確認し、院内在庫の厳正な管理に努めています。



発注業務



検品業務

医薬品情報管理業務

院内において医薬品が安全かつ有効に使用されるために、情報を収集・管理し、薬剤師の専門知識をもとに医療スタッフや患者様に的確な情報提供を行っています。

院内向けの医薬品情報誌の発行、院内の採用医薬品の選定や管理、院内ネットワークにて、最新の添付文書情報が閲覧できるシステム（JUS DI）の管理を行っています。



Pharmacy Letter

- 目次
- I. 外観等変更等のお知らせ……………1
- II. 使用上の注意改訂情報……………2~3
- III. 前号より追加の削除品・名称変更品・発売切替品等……………3
- IV. 前号より追加の仮採用医薬品……………4
- V. 今月のトピックス～機性便利に使用される下剤について～……………5~6

- I. 外観等変更等のお知らせ (在庫が無くなり次第、順次変更となります)

[illegible][illegible]

院内特殊製剤業務

医師からの要望を受けて、患者様の治療に必要とされる市販されていない薬や特殊な製剤の調製を行っています。

院内特殊製剤の調製に際しては、事前に科学的・倫理的な妥当性について委員会で審議を行っています。



TDM業務

抗菌薬（抗MRSA薬、アミノグリコシド系薬）について、解析ソフトを用いて、血中濃度や患者様の状態を基に、薬剤の投与量や投与間隔についての解析を行っています。

その結果に基づいて、最適な薬剤の効果と安全性が得られるように医師へ処方提案を行い、その後のフォローも行っています。

患者番号: 1234567

患者名: ニシマル タロウ

生年月日: 1922/2/22

患者情報

性別 男:M女:F	M
年齢(才)	97.3
身長(cm)	170.0
体重(㎏)	60.0
Scr(mg/dL)	0.75
OCr(mL/min)	
体表面積(m ²)	1.69
理想体重(BW)	65.95
BMI	20.8
OCr(CG式 mL/min)	47.44
体重の補正	
感染症	
投与薬剤	TEIC
予測パラメータ	Ver2.0

初期投与設計パラメータ

CL	0.492
k12	0.380
k21	0.049
V1(Vd)	10.400

投与方法から血中濃度を推定

投与量	投与間隔	点滴時間	ピーク1.0hr	トラフ	AUC/MIC
200mg	24hr	1.0hr	24.88	14.55	407
				MIC	1

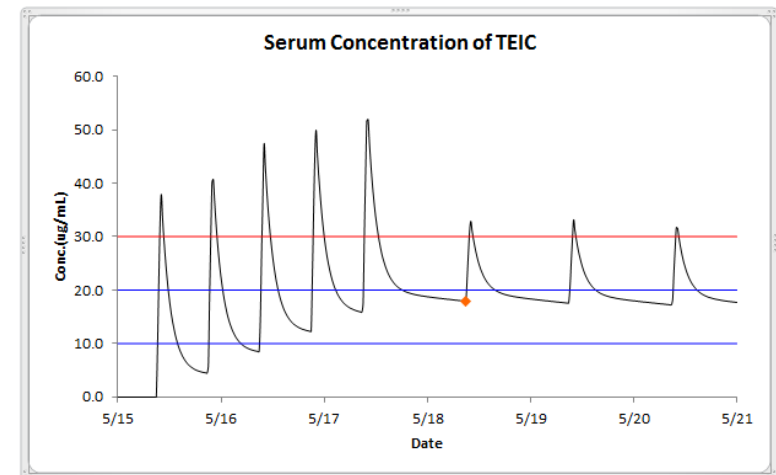
投与計画案

月/日	投与回数	時:分	1回量(mg)	点滴時間(hr)
5月15日	2回	9:00/21:00	500	1.0
5月16日	2回	9:00/21:00	500	1.0
5月17日	1回	9:00	500	1.0
5月18日	1回	9:00	200	1.0
5月19日～	1日1回	9:00	200	1.0

◆TDMの予定

α	0.471
β (Kel)	0.005
$t_{1/2\beta}$	142.303

月/日	時:分	予測濃度
2019/5/18	9:00	17.92ug/mL
土曜日		トラフのみ測定



病棟薬剤師業務

各病棟に専任薬剤師を配属し、以下の業務に取り組んでいます。

- 処方時における医師とのディスカッション
- 患者様への服薬指導、薬の効果・副作用のモニタリング
- 持参薬の鑑別、管理
- 各種カンファレンスへの参加、多職種への情報提供
- 病棟の薬剤在庫の管理、使用状況の分析

上記を通じて、医薬品の適正使用の推進に力を注いでいます。



フィジカルアセスメントの実施

当院では患者様の適切な薬物治療と副作用の早期発見と防止に力を入れて取り組んでいます。その一環として、面談時にフィジカルアセスメント※を行っております。

結果について、多職種との情報共有を行っております。



※血圧、脈拍、体温、呼吸数、意識レベルなどのバイタルサインの確認、視診や聴診などによる評価

感染制御チーム（ICT）

薬剤師の視点から、院内の感染状況の把握、ICTラウンドに参加し消毒薬の適正使用の推奨、院内講演会を行うことでチームに貢献しています。

関連学会や研修会に参加することで、個々の研鑽にも力を入れています。



針捨てBOXのチェック



軟膏の期限をチェック

ICTラウンドの様子

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

抗菌薬が効かない細菌（耐性菌）が世界中で問題となっています。そのため、専門職種が力を合わせ、抗菌薬を使用する時に、十分な治療効果を得ながら、副作用を最小限にとどめ、いち早く感染症治療が完了できる（最適化する）ように支援を行うチームです。

薬剤師としての専門性を活かし、抗菌薬の特性に応じた使い方や使用する抗菌薬の提案を行っています。



ASTミーティング風景

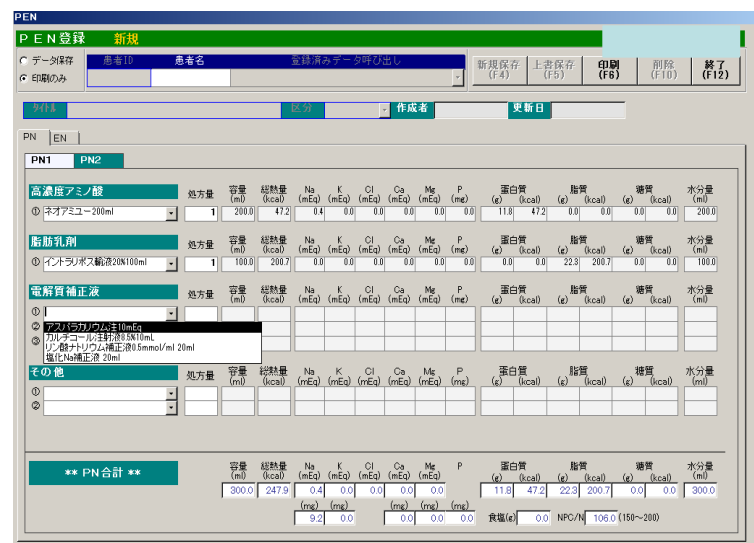
栄養サポートチーム（NST）

患者様の状態に合わせた栄養剤の選択へ関与したり、投与されている輸液・栄養剤について併用薬との相互作用・配合変化等のチェックを行います。

多職種に対して、嚥下や食欲に影響のある薬剤情報の提供を実施しています。



NST会議風景

A screenshot of the "PEN" (Parenteral Nutrition) automatic calculation system. The interface is in Japanese and shows a form for entering patient data and calculating the composition of parenteral nutrition. It includes fields for patient name, room, and date. Below, there are tables for selecting and calculating various components like amino acids, lipids, and electrolytes. The bottom section shows the final calculated totals for the PN mixture, including volume, calories, and electrolyte concentrations.

PN1	PN2
高濃度アミノ酸	
① エオアミノ200ml	
②	
脂肪乳剤	
① イントラパス軟液200/100ml	
②	
電解質補正液	
①	
②	
その他	
①	
②	
** PN合計 **	
容量 (ml)	300.0
総熱量 (kcal)	247.9
Na (mEq)	0.4
K (mEq)	0.0
Cl (mEq)	0.0
Ca (mEq)	0.0
Mg (mEq)	0.0
P (mg)	0.0
蛋白質 (g)	11.8
脂質 (g)	47.2
糖質 (g)	22.3
水分量 (ml)	200.7
食塩当量 (g)	0.0
NPC/N	106.0 (150~200)

栄養剤自動計算システム

薬剤部内勉強会

新しい薬剤について製薬企業による説明会を定期的に行っています。また症例を自分でまとめ、発表する部内勉強会を月1回開催しており、新しい知識の取得や共有を行っています。

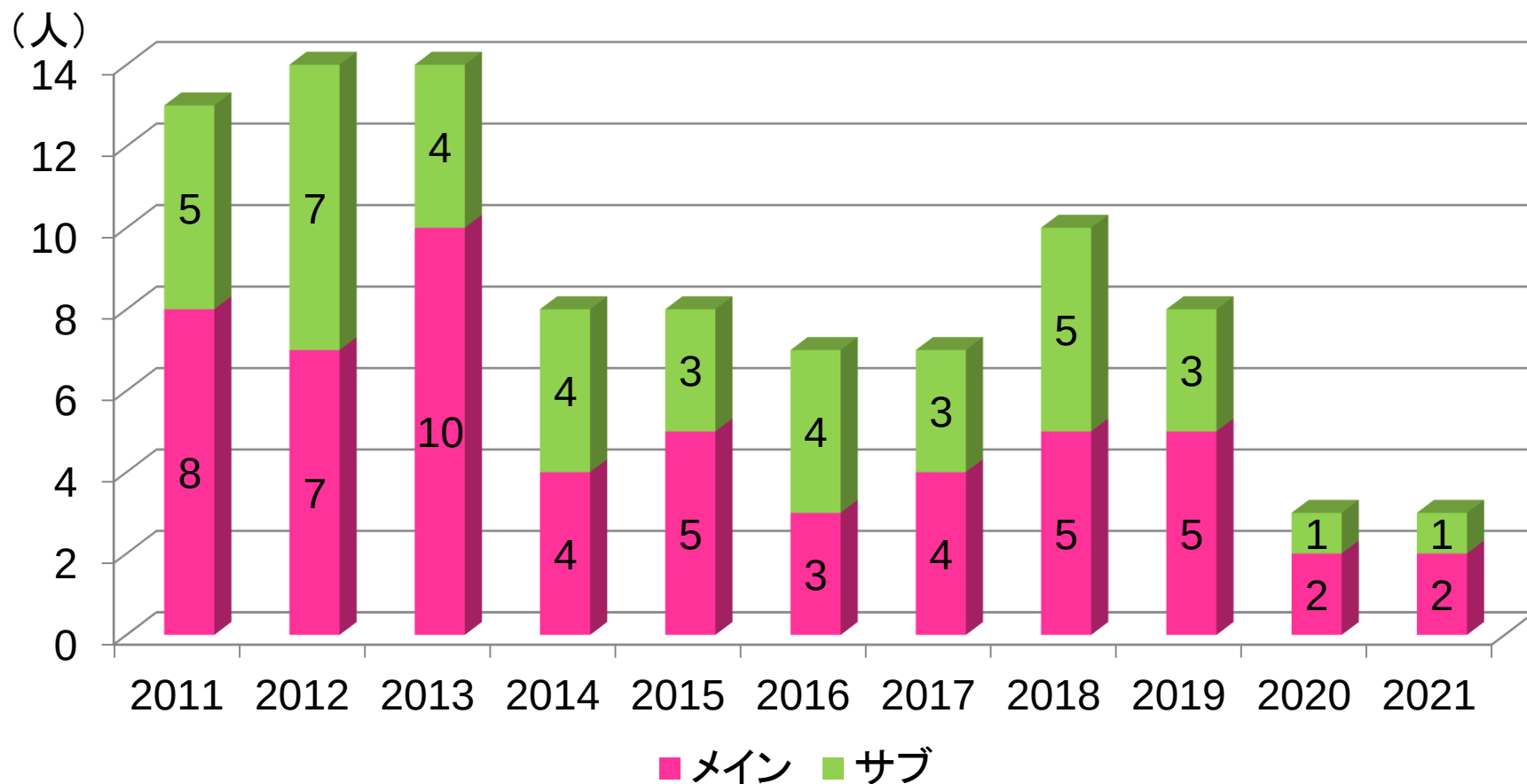


今まで取り扱った勉強会内容（一部）

- 抗MRSA薬のTDMについて
- 薬剤性皮膚障害について
- ポリファーマシーへのアプローチ
- 抗菌薬使用によるPT-INR上昇について
- 終末期がん患者の麻薬使用例

薬学生の実習受け入れ

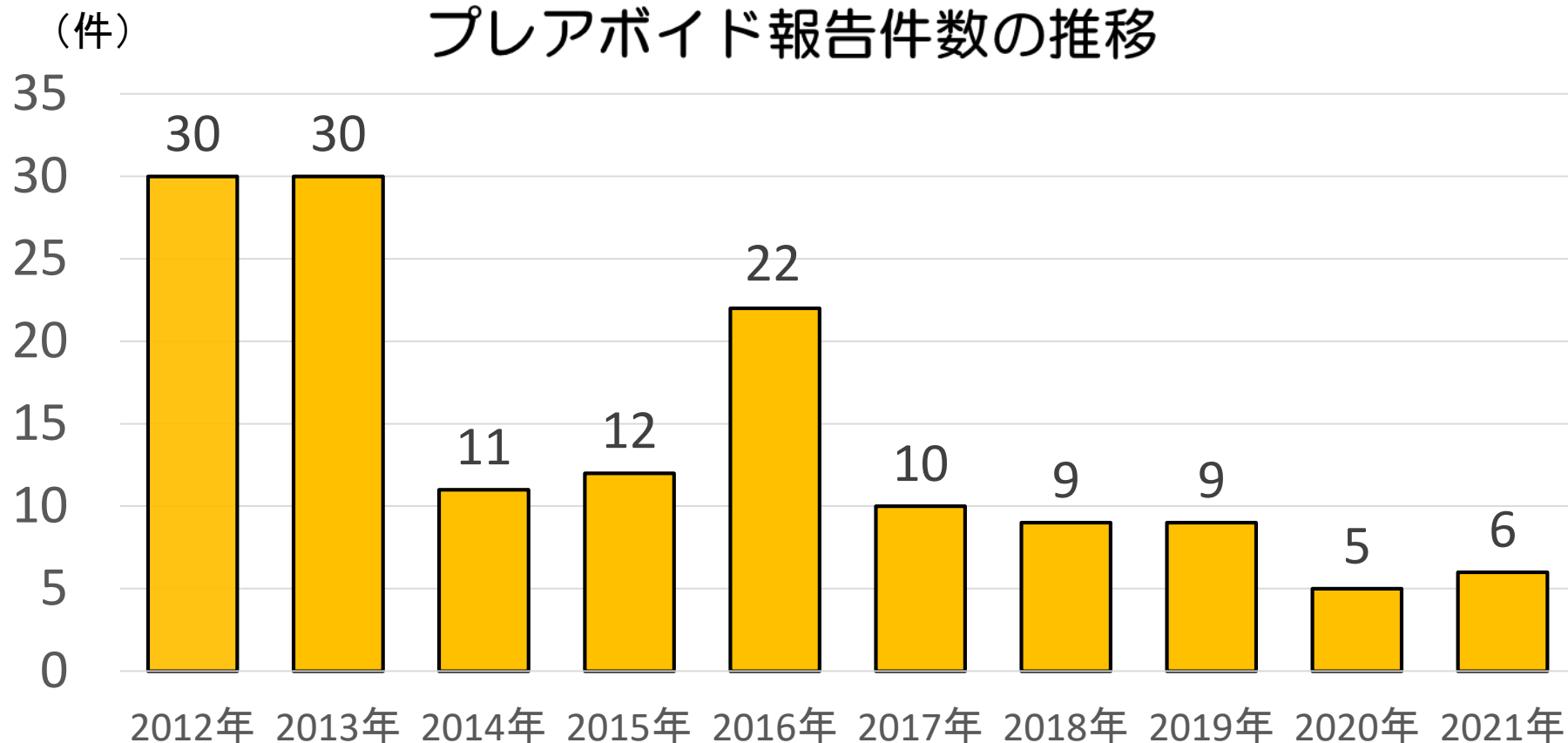
当院（医療療養型）は、慈啓会病院（ケアミックス型）、札幌南三条病院（急性期）・札幌南一条病院（複合型）とのグループ実習を実施し、積極的に学生の受け入れをしています。



プリアボイド報告

当院では積極的にプリアボイドの報告と部内での共有を行い、医薬品適正使用の推進と医薬品を使用される患者様の安全管理に努めております。

プリアボイド報告件数の推移



認定薬剤師一覧

(2022年4月時点)

認定資格	人数
薬学博士	1名
日本医療薬学会 認定薬剤師制度認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 認定薬剤師制度指導薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	7名
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士	1名
日本病院薬剤師会 薬学認定薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター 認定漢方薬・生薬認定薬剤師	2名
日本骨粗鬆症学会 骨粗鬆症マネージャー	1名
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	1名

全国関連学会への発表実績 (2010年～2021年度)

2021年度	
医療薬学フォーラム2021（沖縄）	腎機能薬剤投与チェックシステムの導入による疑義照会業務への効果
2020年度	
第68回日本化学療法学会総会（神戸）	大規模療養型病院におけるAST活動で得られた成果と今後の課題
2017年度	
第27回医療薬学会（東京）	レボドパ配合剤の薬剤間での血圧への影響
2016年度	
第26回医療薬学会（京都）	病棟薬剤業務支援用の検査値アラートシステムの導入について
2015年度	
第25回医療薬学会（横浜）	錠剤鑑査支援システム導入による調剤業務の効率化について
第64回日本感染症学会・第62回 日本化学療法学会 合同学会 （札幌）	高齢者のインフルエンザウイルス感染に対するオセルタミビル 予防投与の有効性に関する検討

2014年度	
医療薬学フォーラム2014（東京）	当院における持参薬管理システムの運用について
第24回日本医療薬学会（名古屋）	高齢者における長期中心静脈栄養施行時のビタミンB ₁ の投与量に関する検討 療養病床におけるフィジカルアセスメントを活用した感染症治療への介入について
第22回日本慢性期医療学会（熊本）	褥瘡外科的デブリードマン後の止血に対する硝酸銀濃厚水溶液の効果について

2013年度	
医療薬学フォーラム2013（石川）	セコム提携病院における病棟薬剤業務の適正化に向けての相互評価への取り組み
第23回日本医療薬学会（仙台）	慢性期医療における薬学的ケアの実践と地域連携 ～療養病棟・回復期リハ病棟等における病棟薬剤業務～障害者一般病棟における病棟薬剤業務
第21回日本慢性期医療学会（東京）	療養病床における病棟薬剤業務実施加算の実施への取り組み
リハ・ケア合同研究大会千葉2013	回復期リハ病棟における病棟薬剤業務実施加算業務の試行について

2012年度	
第22回日本医療薬学会（新潟）	当院におけるハイリスク薬の適正使用に関する取り組みについて
第20回日本慢性期医療学会（福井）	ハイリスク薬の適正使用に関する当院の取り組みについて 回復期リハビリテーション病棟での積極的な薬剤師の取り組みー当院における持参薬の適正使用についてー

2011年度

第18回日本慢性期医療学会
(札幌)

療養型病院におけるグループ化長期実務実習への取り組み

当院における薬剤管理指導業務の推進について

回復期リハビリテーション病棟におけるセコム提携病院薬剤部会の取
り組みー薬剤管理指導業務の推進についてー

医療薬学フォーラム2011
(旭川)

療養型病院における調剤支援システムのバージョンアップについて

療養型病院における薬剤管理指導業務の推進について
ー支援システムのバージョンアップによる業務の効率化ー

札幌市内病院におけるグループ化長期実務実習への取り組み

第53回全日本病院学会
(沖縄)

回復期リハビリテーション病棟における薬剤師の積極的な業務展開に
ついてー持参薬とハイリスク薬の管理ー

2010年度

第18回日本慢性期医療学会
(大阪)

当院神経内科病棟における薬学的ケアの充実について

当院における注射剤の指示変更に伴う破損減少に向けての取り組み

第52回全日本病院学会
(神戸)

当院におけるプレアボイド報告推進による医薬品適正使用への
取り組み

第131年会日本薬学会
(静岡)

療養型病床群における薬剤管理指導業務の推進について

大学卒業して新人薬剤師になる方へ

教育プログラムに則って、段階的に業務を覚えていってもらいます。プリセプター（教育担当の先輩薬剤師）を設定し、相談しやすい環境を整えています。

新人薬剤師の1年間の流れ

調剤・注射業務

6月

休日業務デビュー
（先輩サポートあり）

8月

休日業務サポート卒業
（2名体制で勤務）

3月

平日シフト制限解除
（ひとり立ち）

新人の1年間

7月

病棟での研修
開始

11月

薬剤管理指導を
単独で実施

2月

病棟を担当
（ひとり立ち）

1年目早くから病棟に行けます

病棟業務

高齢者医療の最前線で 共に働きませんか？

当院薬剤部は高齢者医療の担い手として、幅広い疾患の薬に対応しています！勉強しやすい環境、働きやすい環境を整えています！

札幌西円山病院の施設見学会 随時受付中！

連絡先 薬剤部 山田

電話：011-644-3250（薬剤部直通）

奨学金制度あり！募集しています！
興味ある方は気軽にご連絡ください！

